

知的障がい児者・自閉症児者が 「輝いて生きる」ことを支援します

医療の互助組織であった「おおさか福祉互助会」が保険業法改正により、継続困難となり、より充実した内容の「生活サポート総合補償制度」が誕生しました。

「生活サポート総合補償制度」に加えて、知的障がい児者・自閉症児者(以下、障がい者という。)、その家族の暮らしを支援する各種事業を実施する「大阪知的障害児者生活サポート協会」(以下、大阪生活サポート協会という。)が平成20年4月に設立され、昨年度設立10周年を迎えました。

我々の団体の特長は、知的障害児者生活サポート協会・損害保険会社・代理店の三者が10年に亘る信頼関係の下、「障がい者の安心・安全な暮らし」の実現を目標に協働して事業を実施しているところです。

事業の内容

支援に関する事業	日常生活支援、就労生活支援、権利擁護、スポーツ振興
支部活動等助成事業	支部(会員が利用する事業所等)が実施する事業へ助成します。
表現活動支援	支部を利用されている方・地域で暮らす方が制作する絵画、手芸、粘土等作品を発表する機会をつくります。
家族・支援者のサポート	研修会の開催、調査研究等
補償制度	「生活サポート総合補償制度」に加入すると、大阪生活サポート協会の会員になります。

令和元年度事業計画の中からいくつかをご紹介します。

- グループホームで暮らす方々の支援として、来年2月に「集まれグループホーム」を開催します。
- 障がい者が絵画・手芸等の作品を発表する機会をつくと共にご応募いただいた方々の「交流会」を12月に開催します。
- ご家族等のニーズに応えるための一つとして、ホームページ上に「なんでも相談コーナー」を設けます。

大阪生活サポート協会は、各種事業と「生活サポート総合補償制度」により、権利の主体者である障がい者が「地域」という舞台上で「その人らしく、輝いて生きる」ことのできる環境づくりに努めています。今後とも、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 理事長 安本 伊佐子

* 作品紹介 *



四季折々の灯り (ワークセンターいまがわ就労継続支援B型)



ビーチに落ちた原石 (オリオン)



風景 (仲野 孝治)



フラミンゴ (砂本 英俊)

会員の皆様へ加入していただいている「生活サポート総合補償制度」につきまして、2020年4月1日より下記の3点が改定となります。詳しくは別紙パンフレットをお読み下さい。

① 保険料の変更 ② 補償内容の変更 ③ 加入条件の変更

今年度も引き続き会員・支部の皆様方のご協力とご理解の程、よろしくお願いいたします。
(松山 茂美)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 会費収入	22,111,100	22,848,600	△ 737,500
② 民間助成金収入	0	100,000	△ 100,000
③ 参加費等収入	0	354,000	△ 354,000
④ 受取利息収入	3,000	4,188	△ 1,188
⑤ 雑収入	0	82,140	△ 82,140
事業活動収入計	22,114,100	23,388,928	△ 1,274,828
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
支部活動助成金支出	4,300,000	2,993,926	1,306,074
スポーツフェスタ支出	200,000	200,432	△ 432
知的障がい児者ソフト大会支出	0	120,225	△ 120,225
就労・生活支援事業支出	800,000	1,076,509	△ 276,509
研修会支出	150,000	233,363	△ 83,363
広報費支出	380,000	234,934	145,066
支部(事業所)の実態調査支出	2,000,000	1,969,920	30,080
10周年記念事業支出	1,000,000	1,682,425	△ 682,425
事業費支出計	8,830,000	8,511,734	318,266
② 管理費支出			
役員報酬支出	800,000	704,880	95,120
人件費支出	4,860,000	4,487,093	372,907
福利厚生費支出	50,000	14,198	35,802
会議費支出	150,000	60,661	89,339
交際費支出	30,000	13,078	16,922
旅費交通費支出	820,000	573,220	246,780
通信運搬費支出	800,000	910,257	△ 110,257
消耗什器備品費支出	100,000	56,284	43,716
消耗品費支出	150,000	102,041	47,959
印刷製本費支出	100,000	89,856	10,144
賃借料支出	920,000	871,783	48,217
租税公課支出	3,000	10,000	△ 7,000
負担金支出	1,689,000	1,748,100	△ 59,100
寄付金支出	0	10,000	△ 10,000
会費・参加費支出	50,000	27,000	23,000
リース料支出	180,000	207,144	△ 27,144
業務委託費支出	1,050,000	1,068,080	△ 18,080
顧問料支出	388,800	388,800	0
会計巡回指導支出	400,000	396,400	3,600
研修研究費支出	50,000	17,208	32,792
雑支出	45,000	37,768	7,232
管理費支出計	12,635,800	11,793,851	841,949
③ その他の支出			
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
事業活動支出計	21,535,800	20,375,585	1,160,215
事業活動収支差額	578,300	3,013,343	△ 2,435,043
II 予備費支出	578,300	-	578,300
当期収支差額	0	3,013,343	△ 3,013,343
前期繰越収支差額	0	21,896,232	△ 21,896,232
次期繰越収支差額	0	24,909,575	△ 24,909,575
保険料の部			
科 目	予算額	決算額	会員数
預かり保険料		147,666,770	8,811

RA-SHI-KU (らしく) 創刊号 (第1号) 令和元 (2019) 年9月
 発行人 安本 伊佐子
 発行所 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
 〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
 TEL 06-6764-6889 FAX 06-6770-5988
 E-mail kyokai@osakasupport.or.jp www.osakasupport.or.jp
 編集 安本 伊佐子 榊 皇雄 柴沼 廣 松山 茂美 制作 ハンドレッドラボ

当日は、AIG損害保険株式会社にもオプザーバーとしてご出席いただき開催されました。はじめに安本理事長より、今年度も引き続き障がいのある人達が地域の中で安心かつ安全に暮らしている地域づくりに力を入れていきたい旨、ご挨拶申し上げました。

その後、理事長を議長とし議案審議に入り、①新たに大阪府障害者福祉事業団にしよう施設長・阪口勉氏の理事選任、②大阪生活サポート協会設立10周年を迎えた平成30年度事業報告・決算報告、③令和元(2019)年度事業計画並びに予算の承認について審議され、各議案いずれも異議なく満場一致で議決されました。

報告事項としては、2020年度の生活サポート総合補償制度改定、アンケート調査報告書(会員・家族対象)の発行、令和元年度支部活動等助成事業実施要項及びホームページの作品展示コーナーの実施要項、令和元(2019)年度年間事業予定等について報告しました。

令和元(2019)年度事業計画並びに予算の承認について審議され、各議案いずれも異議なく満場一致で議決されました。

令和元年(2019)年度 定時社員総会を開催しました

令和元年6月21日(金)午後3時~4時30分
大阪府社会福祉会館404号室

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 会費収入	23,427,900	22,111,100	1,316,800
② 受取利息収入	3,000	3,000	0
事業活動収入計	23,430,900	22,114,100	1,316,800
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
支部活動助成金支出	4,800,000	4,300,000	500,000
スポーツフェスタ支出	200,000	200,000	0
就労・生活支援事業支出	1,300,000	800,000	500,000
研修会支出	400,000	150,000	250,000
広報費支出	600,000	380,000	220,000
支部(事業所)の実態調査支出	0	2,000,000	△ 2,000,000
10周年記念事業支出	0	1,000,000	△ 1,000,000
フレンドシップソフトボール大会支出	150,000	0	150,000
なんでも相談支出	300,000	0	300,000
表現活動支援支出	600,000	0	600,000
事業費支出計	8,350,000	8,830,000	△ 480,000
② 管理費支出			
役員報酬支出	1,000,000	800,000	200,000
人件費支出	5,350,000	4,860,000	490,000
福利厚生費支出	50,000	50,000	0
会議費支出	150,000	150,000	0
交際費支出	30,000	30,000	0
旅費交通費支出	370,000	820,000	△ 450,000
通信運搬費支出	1,000,000	800,000	200,000
消耗什器備品費支出	200,000	100,000	100,000
消耗品費支出	150,000	150,000	0
印刷製本費支出	100,000	100,000	0
賃借料支出	1,000,000	920,000	80,000
租税公課支出	3,000	3,000	0
全サボ年費	1,777,000	1,689,000	88,000
会費・参加費支出	50,000	50,000	0
リース料支出	180,000	180,000	0
業務委託費支出	1,100,000	1,050,000	50,000
顧問料支出	388,800	388,800	0
会計巡回指導支出	400,000	400,000	0
研修研究費支出	50,000	50,000	0
雑支出	45,000	45,000	0
管理費支出計	13,393,800	12,635,800	758,000
③ その他の支出			
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
事業活動支出計	21,813,800	21,535,800	278,000
事業活動収支差額	1,617,100	578,300	1,038,800
II 予備費支出	1,617,100	578,300	1,038,800
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0
保険料の部			
科 目	予算額	決算額	会員数
預かり保険料		151,769,700	9,000

●編集後記● 機関紙の担当を安易に引き受けましたが、「創刊号」での一番の問題である、機関紙の「タイトル」を決める作業はなかなか難しいものでした。一度つけたらこの先よほどのことがない限り変わることはない「タイトル」。まるで、親がこどもにいろいろな思いを持って命名する感じでした。「RA-SHI-KU (らしく)」、このタイトルがこれから皆様の心に残り、また、多くの情報を伝えることが出来るように努めたいと思っています。



詳しく
知りたい!

大阪生活サポート協会の 支部活動等助成 って?

「生活サポート総合補償制度」に加入しますと、大阪生活サポート協会の会員になります。

会員である利用者の利用する施設・事業所等が「支部」となります。現在、支部は約800、会員は約9000人になっています。

すべての支部を対象に、平成22年度から当大阪生活サポート協会の目的に適った事業実施に対して助成を行っています。平成22年度から30年度までの申請支部の数は延551支部で、その中から240支部に2078万6212円の助成を行ってきました。

平成29年度からは、それまでの各支部が実施する事業への助成に加えて、複数の支部、複数のブロック（地区）が協働して実施する事業に対しても助成の幅を広げています。協働事業の実施を通して、地域のネットワークづくりや法人間の交流の機会になればと思っています。

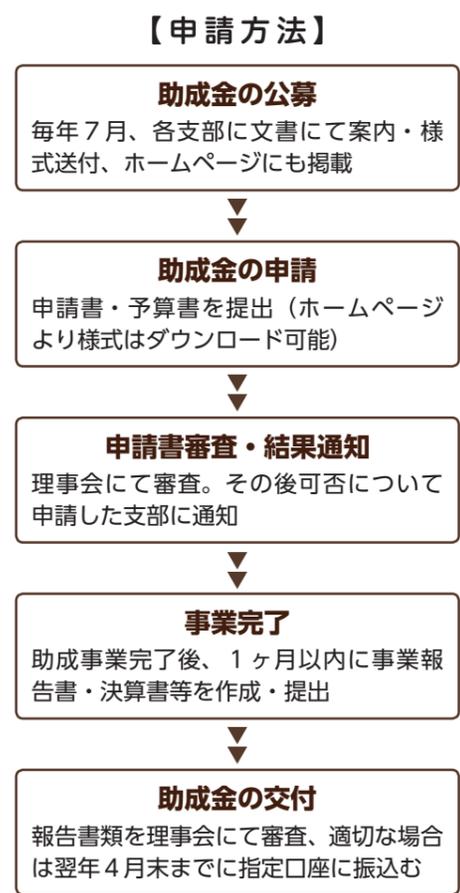
助成対象事業としては「本人（会員）支援」、「家族・支援者・支部（施設等）支援」、「人材育成」等目的に合う事業となります。たとえば、家族会等で「成年後見制度についてもっと知りたい」ということであれば、ご家族（お子様・きょうだい等）が利用する支部（施設等）に相談してみてください。

今年度は、「支援者支援としてコンサルテーション事業」、「支部（施設等）支援として第三者評価受審」、「地域全体で取り組む課題である防災に関すること」を実施していただきたく推奨しています。

毎年度、助成事業実施事業所等から報告された内容については「支部活動等助成事業報告書」を発行し、全支部に配布し、支部活動の促進を図っています。また、当協会のホームページ「支部活動の紹介」にも掲載していますので、ご覧いただければ幸いです。

各支部におかれましては、この助成事業を活用され、地域で暮らす障がい者一人ひとりが権利の主体者として「その人らしく」生きることでできる地域づくり、それぞれの立場で「今できること」から実践していただきたいと切に願っています。

（安本伊佐子）



助成を受けた支部の声

- **地域生活総合支援センターきらら**
今回、助成をいただき「発達障がいと職場環境（本編）」の動画DVDを制作することが出来ました。
このDVDが、各現場において新たな支援のツール（技術）となって、多様化するニーズに応えることで、事業所の安定的運営と良質なサービスの提供につながればと考えています。
- **風の森**
柏原市内の7事業所で作る「柏原作業所連絡会」が文化・芸術を楽しもうと合同の文化祭（KSR文化祭）を開催しました。平成30年度は10回目を迎え、大阪教育大学生による音楽鑑賞会を実施しました。利用者・職員合わせて120名の参加がありました。みんなで歌ったり、踊ったりと多くの利用者さんはステージ前に出ていき、他の施設の方との交流を深めることが出来ました。

令和元（2019）年度大阪生活サポート協会年間事業予定表

6月	<ul style="list-style-type: none"> 監事監査（5日） MVPA会議（5日） フレンドシップソフトボール大会（6日） 令和元年度第1回理事会（21日） 令和元年度定時社員総会（21日） 大阪生活サポート協会機関紙編集委員会（24日）
7月	<ul style="list-style-type: none"> 事業運営委員会（3日） 令和元年度助成事業・作品募集の実施要項、平成30年度助成事業報告書等の発送
9月	<ul style="list-style-type: none"> MVPA会議 第2回理事会（議題：支部活動等助成事業助成支部の選定ほか）（10日） アンケート調査報告書発行（会員・家族対象） 機関紙創刊号の発行
10月	<ul style="list-style-type: none"> 上記アンケート調査報告書、機関紙、生活サポート総合補償制度改定等の発送 近畿・中国・四国ブロック会議（10日） スポーツフェスタ（19日）
11月	<ul style="list-style-type: none"> グループホームの世話人対象に研修会の開催（12日）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 作品応募者の表彰式及び交流会（ホテルアウィーナ大阪 5日）
1月	<ul style="list-style-type: none"> 大阪生活サポート協会と大阪知的障害者福祉協会の合同研修会（大阪国際交流センター 15日）
2月	<ul style="list-style-type: none"> 集まれグループホーム（ホテルアウィーナ大阪 23日）
3月	<ul style="list-style-type: none"> MVPA会議 第3回理事会

皆さんの制作
した作品を発表して
みませんか!

大阪生活サポート協会の 表現活動支援 って?



ビーズのれん
（西平守純）



玉ねぎ（矢形聡）

大阪生活サポート協会は「表現活動支援」事業のひとつとして、知的障がいのある方が描いた絵画・手芸・イラスト・書や写真・造形（粘土等）などの作品を発表するための「表現の場」として活用していただきたく、ホームページ内に「作品展示コーナー」を開設しています。

「作品展示コーナー」で展示する作品は、10月末日を締め切り日として、毎年募集しています。

応募資格は当協会の会員だけに限定されていません。地域で暮らす知的障がいのある方であれば、個人制作でも事業所や職場の仲間力を合わせたグループ制作でも、自由な素材やテーマで制作した作品を応募することができます。

当協会の役員・事業運営委員が応募作品の中から入賞作品を選びますが、ただ単に絵が上手いとか字がきれいといったことではなく、制作者の「思い」や「輝き」「自分らしさ」が表現されているかどうかを選考の基準になります。

入賞作品には、応募された皆さんに集まっていた「交流会」での賞状並びに記念品贈呈のほか、当協会が発行する冊子や「生活サポート総合補償制度」のパンフレット、スポーツフェスタ大阪のプログラムに掲載させていただくなど、ひろく「表現の場」を設けています。

「作品展示コーナー」の詳しい募集内容等は当協会ホームページのお知らせに掲載していますので、皆さんが制作した作品を発表してみませんか？（榊皇雄）

表彰されたAさん・Bさん
～輝いています～

こんな嬉しい
お問い合わせがありました

表現活動として絵画を提出したAさん、Bさん。共に絵画クラブで、自分がイメージする絵を描き続けていました。そして、平成最後の年に初の入選。それ以後、Aさんは絵画の時間が終わるたびに、「絵を描いたから観てや!」と自信たっぷりな姿を、Bさんはご家族にも入選、表彰を伝えることで共に喜んでいる姿を、見ることが出来ました。

あのような公式の場に行くことがない2人でしたが、思いのほか、しっかりした姿勢で座り続けていられた事に加え、多くの人前でしっかり表彰状を受けることが出来たことは驚きでした。賞をもらうために描いていたわけではありませんが、この受賞が2人に自信を付けたことは間違いありません。（柴沼廣）

（松山茂美）